学区と学校

１　学区の特色

守山区にあって香流川の北岸に位置している。地理的には名東区とのつながりが深く、交通の拠点は「藤が丘」駅である。森孝新田という地名から分かるように、江戸時代に開かれた新田地域で、名古屋と瀬戸を結ぶ街道すじには三軒家、四軒家の地名もある。その新田地域も高度経済成長期には名古屋市東部丘陵地帯の住宅地の一部として急速に発展してきたが、近年は高齢化や児童生徒数の減少の傾向がある。

２　学区の成立

昭和 49 年までは守山東中学校区であったが、昭和 50 年大森中学校の分離独立にともない、大森中学校区となった。しかし、急激な人口増加にともない、昭和 52 年に分校設置の必要性が高まり、昭和 53 年には校地の決定がなされ、昭和 54 年には校舎が起工され、昭和 55 年には大森中学校分校として発足した。昭和 56 年４月１日、15 学級 612 名の生徒で「森孝中学校」として独立開校した。

３　本校の校訓

「時を生かせ」

４　本校の教育目標

真理と正義を希求し、健康な心身と自主性を重んじ、人間性あふれた社会人への育成をめざす。

- ○　真実を見つめ、深く考える人
- ○　たくましい体をつくり、強い精神力のある人
- ○　協力を大切にし、思いやりのある人
- ○　勤労を重んじ、自立的精神のある人

５　本校の由来

⑴　校名

開校当時の学校所在地、中学校区域全域が「大字森孝新田」であったので、その地名から「森孝」をとって名付けた。

⑵　校章

森孝中学校の「森」の字をデザイン化して、森の木々のようにみんなが手を結び、大樹のように健やかに成長し、外に向かって若い力が躍動するさまを象徴しており、丸山次生氏のデザインによるものである。



⑶　スクールカラー

「ふかみどり」〈ビリジャン〉〈ディープグリーン〉。自然のみどりが比較的多く残されている学区としての誇りと祈りをこめたもの。別称「松葉みどり」ともいい、古くから能舞台の背景などにも使われた日本の伝統的な色である。

⑷　緞帳原画

森孝の校名にちなみ四季折々の恵みを受けて、たくましく、静かに育つ樹々をデザインした。造形的には三角形と縦の線を強調し、安定と落ち着き、荘厳と未来への向上が表現されている。



